

法令及び定款に基づくインターネット開示事項

第51期（2019年1月1日から2019年12月31日まで）

連結計算書類の連結注記表

計算書類の個別注記表

ジャパンシステム株式会社

法令及び当社定款の定めに基づき、インターネット上の当社ウェブサイト（<https://www.japan-systems.co.jp/ir>）に掲載することにより、株主の皆さまに提供しているものであります。

連結注記表

1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

(1) 連結の範囲に関する事項

①連結子会社の状況

- ・連結子会社の数 1社
- ・連結子会社の名称 株式会社ネットカムシステムズ

②非連結子会社の状況

該当事項はありません。

(2) 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

(3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

(4) 会計方針に関する事項

①重要な資産の評価基準及び評価方法

イ、その他有価証券

- ・時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法を採用しております（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）。
- ・時価のないもの 移動平均法による原価法を採用しております。

ロ、たな卸資産

- ・商品及び製品 総平均法による原価法を採用しております（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しております。）。
- ・仕掛品 個別法による原価法を採用しております（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しております。）。

②重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ、有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。

ただし、賃貸資産、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

賃貸資産	4～5年
建物	8～15年
工具器具及び備品	4～20年

ロ、無形固定資産（リース資産を除く）

・賃貸ソフトウェア

定額法を採用しております。主な耐用年数は3年～6年であります。

・市場販売目的のソフトウェア

見込販売収益に基づく償却額と残存有効期間（3年以内）に基づく均等配分額とを比較し、いずれか大きい額を償却する方法を採用しております。

・自社利用のソフトウェア

社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

③重要な引当金の計上基準

イ、貸倒引当金

売掛金等債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

ロ、賞与引当金

従業員賞与の支給に充てるため、支給見込額の当連結会計年度負担額を計上しております。

④その他連結計算書類の作成のための重要な事項

イ、受注制作のソフトウェア開発に関する収益及び費用の計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる受注契約については、工事進行基準を適用しております（ソフトウェア開発の進捗率の見積りは原価比例法を適用しております。）。

その他の受注契約については、工事完成基準を適用しております。

ロ、消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

ハ、のれんの償却方法及び期間

のれんの償却方法については、10年間の均等償却を行っております。

2. 表示方法の変更に関する注記

(1) 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号2018年2月16日）に伴う、「会社法施行規則及び会社計算規則の一部を改正する省令」（法務省令第5号2018年3月26日）を当連結会計年度から適用し、「繰延税金資産」は「投資その他の資産」の区分に表示しております。

(2) 損益計算書関係

前連結会計年度において、「営業外費用」の「その他」に含めていた「為替差損」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記しております。

3. 連結貸借対照表に関する注記

有形固定資産の減価償却累計額

261,014千円

4. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度 期首の株式数	当連結会計年度 増加株式数	当連結会計年度 減少株式数	当連結会計年度末 の株式数
普通株式	26,051,832株	－株	－株	26,051,832株

(2) 自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度 期首の株式数	当連結会計年度 増加株式数	当連結会計年度 減少株式数	当連結会計年度末 の株式数
普通株式	15,789株	38株	－株	15,827株

(3) 剰余金の配当に関する事項

① 配当金支払額等

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年2月14日 取締役会	普通株式	78,108	3.0	2018年12月31日	2019年3月14日

② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度になるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2020年2月14日 取締役会	普通株式	利益剰余金	156,216	6.0	2019年12月31日	2020年3月12日

- (4) 当連結会計年度末日における新株予約権に関する事項
該当事項はありません。

5. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

①金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金計画に基づき、必要な資金を主に銀行借入により調達しております。資金運用については、合理的な理由がある場合を除いて、原則として安全性の高い金融資産で運用し、投機的な取引は行わない方針であります。

②金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、その他有価証券に区分される株式で、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが1ヵ月以内の支払期日であります。これらは、流動性リスクに晒されております。

③金融商品に係るリスク管理体制

・信用リスク（取引先の債務不履行等に係るリスク）の管理

営業債権につきましては、与信管理規程に基づき、担当部門において主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

・市場リスク（金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券につきましては、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

・資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社グループは、各部署からの報告に基づき担当部署が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手元流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2019年12月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。

	連結貸借対照表 計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	3,375,231	3,375,231	—
(2) 受取手形及び売掛金	1,821,624	1,821,568	△56
(3) 投資有価証券	238,439	238,439	—
(4) 買掛金	349,875	349,875	—

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

(1) 現金及び預金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 受取手形及び売掛金

時価については、一定の期間ごとに区分した債権ごとに債権額を満期までの期間及び信用リスクを加味した利率により割引いた現在価値により算定しております。

(3) 投資有価証券

時価については取引所の価格によっております。

(4) 買掛金

短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 非上場株式(連結貸借対照表計上額400千円)は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)投資有価証券」には含めておりません。

6. 減損損失に関する注記

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類
長野県茅野市	遊休資産	土地

当社グループは、管理会計上の事業部及び営業所等の単位でグルーピングを行っており、遊休資産については個別資産ごとにグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、長野県茅野市の遊休資産の土地について、回収可能価額が帳簿価額を下回ることとなったため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(309千円)として特別損失

に計上しました。

なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しており、土地については固定資産税評価額を基礎として合理的な見積もりに基づいて評価しております。

7. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額	206円97銭
(2) 1株当たり当期純利益	19円98銭

8. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 資産の評価基準及び評価方法

①有価証券の評価基準及び評価方法

関係会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

その他有価証券

・時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法を採用しております。

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)

・時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

②たな卸資産の評価基準及び評価方法

・商品及び製品

総平均法による原価法を採用しております。

(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しております。)

・仕掛品

個別法による原価法を採用しております。

(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しております。)

(2) 固定資産の減価償却の方法

①有形固定資産 (リース資産を除く)

定率法を採用しております。

ただし、賃貸資産、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

賃貸資産 4～5年

建物 8～15年

工具器具及び備品 4～20年

②無形固定資産 (リース資産を除く)

・賃貸ソフトウェア

定額法を採用しております。主な耐用年数は3年～6年であります。

・市場販売目的のソフトウェア

見込販売収益に基づく償却額と残存有効期間(3年以内)に基づく均等配分額とを比較し、いずれか大きい額を償却する方法を採用しております。

・自社利用のソフトウェア

社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3) 引当金の計上基準

①貸倒引当金

売掛金等債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。従業員賞与の支給に充てるため、支給見込額の当事業年度負担額を計上しております。

②賞与引当金

(4) 収益及び費用の計上基準

受注制作のソフトウェア開発に関する収益及び費用の計上基準

①当事業年度末までの進捗部分 について成果の確実性が認め られる受注契約

工事進行基準を適用しております。(ソフトウェア開発の進捗率の見積りは原価比例法を適用しております。)

②その他の受注契約

工事完成基準を適用しております。

(5) その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

2. 表示方法の変更に関する注記

(1) 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号2018年2月16日)に伴う「会社法施行規則及び会社計算規則の一部を改正する省令」(法務省令第5号2018年3月26日)を当事業年度から適用し、「繰延税金資産」は「投資その他の資産」の区分に表示しております。

(2) 損益計算書関係

前事業年度において、「営業外収益」の「その他」に含めていた「業務受託料」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より独立掲記しております。

前事業年度において、「営業外費用」の「その他」に含めていた「為替差損」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より独立掲記しております。

3. 貸借対照表に関する注記

有形固定資産の減価償却累計額

有形固定資産

246,161千円

4. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

営業取引による取引高

商品等の仕入	1,315千円
業務委託料等の支払	389千円
出向料の受取	3,000千円

営業取引以外の取引による取引高

業務受託料の受取	3,000千円
資産譲受高	-千円

5. 株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首の株式数	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度末の株式数
普通株式	15,789株	38株	一株	15,827株

6. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

固定資産評価損	31,954千円
有価証券評価損	6,973千円
減価償却超過額	19,690千円
資産除去債務	14,442千円
賞与引当金	17,345千円
未払事業税	18,430千円
貸倒引当金	1,004千円
その他	24,742千円

繰延税金資産小計 134,583千円

評価性引当額 △38,927千円

繰延税金資産合計 95,655千円

繰延税金負債

資産除去債務に対応する除去費用	△1,628千円
その他有価証券評価差額金	△34,954千円

繰延税金負債合計 △36,583千円

繰延税金資産の純額 59,072千円

7. 関連当事者との取引に関する注記

(1) 関連会社等

種類	会社等の名称	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
子会社	(株) ネットカムシステムズ	所有直接100	同社商品等の購入 業務管理の受託 社員の出向 役員の兼任	商品等の仕入(注1)	1,315	買掛金	—
				業務委託等の支払(注1)	389	未払金	—
				出向料の受取(注2)	3,000	未収入金	—
				固定資産の購入(注1)	—	未払金	—
				業務受託料の受取(注1)	3,000	未収入金	—

(2) 兄弟会社等

種類	会社等の名称	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
親会社の 子会社	DXCテクノロジー・ ジャパン(株)	—	ソフトウェアの 開発受託等 役員の派遣	ソフトウェア の開発受託等 (注1)	523,397	売掛金	104,573

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. 価格その他の取引条件は、市場実勢を勘案して当社が希望価格を提示し、価格交渉の上で決定しております。
2. 当社から連結子会社への出向者に対する給与の受取は契約をもとに決定しております。
3. 取引金額には消費税等は含まれておりません。期末残高には消費税等を含めております。

8. 1株当たり情報に関する注記

- (1) 1株当たり純資産額 202円49銭
- (2) 1株当たり当期純利益 18円55銭

9. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。